



TITLE:

冥王星の1943年 (1943年の天文年鑑  
)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

冥王星の1943年 (1943年の天文年鑑). 天界 1942, 23(259): 24-24

ISSUE DATE:

1942-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168528>

RIGHT:

## 冥王星の1943年

1930年の初めにトンボ1氏が発見してから、今年は13年目であるが、依然として此の星は、蟹座のガ星の東北 $2^{\circ}\sim 3^{\circ}$ あたりを、悠々と運行してゐる。光りが弱くて、普通的手段では殆んど其の姿を見せない。“幽冥界の支配者”だから、止むを得ないが、しかし世界第一流の望遠鏡を持つてゐる人は、寫眞法によつて観測し得ると思ふ。さしあたり、此の星の變光状態の有無を確かめることは、大きい功績であらうと思はれる。この冥王星の位置は、大體、下の通り。

日時	赤經(1950.0)	赤緯(1950.0)	地球より距離	光度(眼視)
日本時	h m s	° ' "	單位	
1943年 1月 1日	8 42 18	+23° 31.8	37.23	14.5
2月 1日	8 39 31	+23 45.1	37.12	14.5
3月 1日	8 36 58	+23 55.1	37.28	14.5
4月 1日	8 35 11	+24 0.1	37.69	14.5
5月 1日	8 35 09	+23 58.7	38.14	14.5
6月 1日	8 36 37	+23 51.3	38.60	14.5
7月 1日	8 39 26	+23 40.6	38.90	14.5
8月 1日	8 43 05	+23 28.3	38.98	14.5
9月 1日	8 46 45	+23 17.9	38.83	14.5
10月 1日	8 49 33	+23 12.3	38.40	14.5
11月 1日	8 51 04	+23 12.9	37.88	14.5
12月 1日	8 50 55	+23 20.4	37.37	14.5
1944年 1月 1日	8 49 07	+23 34.1	36.99	14.5

冥王星の観測時期は、毎年の年末から、翌年三四月頃まで、大體寒い頃である。今1943年は一月27日に太陽と對衝になる。その時、地球からの最短距離は37.1單位、即ち55億7千萬キロ、光達時間は5時間08分である。太陽と會合するのは八月1日。又、西留は四月19日、東留は十一月11日である。

## 1943年の彗星界

今1943年中に近日點へ歸つて來る週期彗星は、今まで知れてゐるもののうち、下記のものが豫想される。

星の名	週期	近日點距離	離心率	引數	昇交點	傾斜	歸來期
	年	單位					
ネウイミン	5.43	1.335	0.568	193 38	327 44	10 38	4月
ダレスト	6.68	1.375	0.612	174 17	143 44	18 03	9月
ダニエル	6.82	1.536	0.573	6 07	70 18	19 50	11月
ショーマス	7.93	1.166	0.707	46 15	90 25	14 42	8月

この4つの彗星のうち、最初に記したネウイミン星は、1916年と1927年とに観測されたものであるが、1921年と1932年とには、見付からなかつた。これは、週期が凡そ5年半であるため、観測の都合は、1回毎に良かつたり、悪かつたりするのが交代するからであらう。つまり、観測不能といふのは、其の出現